

かみさわ

第8号

発行 佐野市町長連合会
編集 会報編集委員会

唐沢山…幕原赤郷公の居城社で、深い歴史を持つ山

地域の力で美しい里山が復活！

— 船越北町会 —

～町会・企業・行政が三位一体となった取組みを実現～



イノシシ対策から始まる
顔を合わせると必ずと言つていいほどイノシシ・シカ・サルの話になっていたところです。中山間地域に住む人々の頭から離れない獣害被害を解決するため、「里山を未来に残そう」地域の団結とはみんなで支えるものだ！」を合言葉に、イノシシ避けのネットを山沿い約14kmに張り始めたのは約5年前のことでした。

地元企業とマッチング
ネット張りの次に手掛けたのは、町会内に約20ヶ所ある耕作放棄地でした。町内心には約20年耕作を放棄した農地があり、灌木や雑竹、セイタカアワダチソウなどが繁茂しイノシシやタヌキのねぐらとなっていました。

昨年の秋、県の事業に名乗りを上げボランティアの方々と町会総ぐるみ総勢約100人で下草刈りを実施しました。続いて今年度は、地元の企業の協力を得て農地の再生を行う計画を立て、第一段としてショウガの植え付けを行いました。これからは更なる事業の展

開を考えていることです。が、そば焼きなども行い、秋の収穫やそば打ち名人も多い土地柄のため、みんなで手掛けた農地でできたそばを食べる喜びを味わいたいことがあります。

難問解決が結束力へ繋がる

この船越北町会の取組みには、獣害対策と遊休農地の利活用という目的の裏に一番大切なことが隠されています。それは作業に参加したみんなが、地域に貢献する喜びを感じているということです。それまで暗い話題の多かつた茶飲み話が、一転して明るくなり、喜びと笑顔が取り戻せたとのことです。一つひとつ難問を解決することを共有したことで、地域の結束力が増したと見えられます。

責任感・度胸・努力
龜山春夫町長にその秘訣を尋ねたところ「責任感と度胸と努力でみんなを引っ張っていくこと」「誰かが旗を振らないと始まらない。始まれば協力してくれる人と手を携えて進めれば良い」と、力強い言葉が返ってきました。



平成24年度定期総会を開催しました

・議案第1号 平成23年度佐野市町長連合会歳入歳出決算の承認について
 ・議案第2号 平成24年度佐野市町長連合会事業計画について
 ・議案第3号 平成24年度佐野市町長連合会歳入歳出予算について
 ・議案第4号 佐野市町長連合会歳入歳出予算に付随する議案について
 市町会員の改選について

・報告第1号 平成23年度佐野市町長連合会事業経過について
 市町会員の改選について
 件について審議が行われ、原案どおり可決されました。

平成23年度 佐野市町長連合会歳入歳出決算書

科 目	予 算 額			収入実績	予算実績との比較	備 考
	当期予算額	補正予算額	計			
1 交付金	2,500,000	0	2,500,000	2,500,000	0	市交付金
2 負担金	1,230,000	0	1,230,000	1,179,150	△ 50,850	視察研修会参加費負担金等
3 雑 越 金	125,052	0	125,052	125,052	0	前年度越越金
4 贈 収 入	948	0	948	10,112	9,164	慶賀、預金利息
合 计	3,856,000	0	3,856,000	3,814,314	△ 41,686	

科 目	予 算 額			支 出 実 様	不 用 額	備 考
	当期予算額	流用充當額	計			
1 事務費	100,000	9,000	109,000	108,770	230	通信費、印刷製本費、手数料
2 会賀費	20,000	5,000	25,000	24,130	870	会賀費等
3 事務費	3,486,000	△ 14,000	3,472,000	3,486,331	5,688	組合費、研修費、会報誌作成費、新春祝賀会費、費用弁償、栃木県自治会連合会視察研修会費、会報費、会員登録料等
4 負担金	100,000	0	100,000	98,200	1,800	佐野市町長交際費負担金、栃木県自治会連合会費、新潟県自治会連合会費
5 鹿児島費	50,000	0	50,000	35,750	14,250	
6 予備費	100,000	0	100,000	0	100,000	
合 计	3,856,000	0	3,856,000	3,731,181	124,819	

平成24年度 佐野市町長連合会歳入歳出予算書

科 目	本年度	前年度	比 比	説 明	
				較	明
1 交付金	2,500,000	2,500,000	0	市交付金	
2 負担金	1,230,000	1,230,000	0	新潟県視察研修会負担金 役員視察研修会負担金	
3 雑 越 金	83,133	125,052	△ 41,919	前年度越越金	
4 贈 収 入	987	948	△ 81	預金利息	
合 计	3,814,000	3,856,000	△ 42,000		

科 目	本年度	前年度	比 比	説 明	
				較	明
1 事務費	100,000	100,000	0	郵便料金、事務用品、会議作成費等	
2 会賀費	20,000	20,000	0	会賀費等	
3 事業費	3,484,000	3,486,000	△ 22,000	新潟県視察研修会費、役員視察研修会費、委嘱料、会報費、新潟県会員登録会員登録料等	
4 負担金	100,000	100,000	0	新潟県自治会連合会会費、佐野市国際交流協会会員等	
5 鹿児島費	30,000	50,000	△ 20,000	鹿児島費等	
6 予備費	100,000	100,000	0		
合 计	3,814,000	3,856,000	△ 42,000		

市長との懇談会

8月に城北地区公民館、11月に中央公民館において計92名の町長が市長との懇談会を実施しました。新庁舎建設や広報紙の月刊化、県道桐生岩舟線の整備や犬の飼い主マナーに代表されるご近所トラブルの解消について等白熱した討議を行いました。



平成23年度の事業報告(概要)

平成23年度は主に以下の事業を行いました。

東日本大震災義援金募金活動

多くの市民の方々のご理解をいただき、東日本大震災の義援金の募金活動を実施しました。町長が先頭となり町会役員の協力を得て、積極的な事業展開となりました。集められた義援金は日本赤十字社と宮城県大崎市へ送金しました。

その他

5月最終日曜日に全市一斉清掃を実施しました。また会報「からさわ」を2回発行しました。今後も市民の皆さんに、町会や町会連合会に関する多くの情報を送ります。

視察研修

東日本大震災を経験し、今後の防災のあり方や地域防災力向上のため、新潟県中越地震の被害から復興を果たした新潟県旧山古志村（現長岡市）を視察研修しました。地盤の際、村役場で執務されていた職員の方の声を聞き、また現地にも足を運び、改めて自然災害の凄さと地域や町会長として出来る事を再確認しました。



市長との懇談会

市長と町会長との懇談会を開催します。地域における課題や今後の佐野市について話し合い、町会と行政の連携を図ります。

平成24年度の主な事業

会報の作成

市民の皆さんに、より多くの町会に関する情報をお送りするため会報を年2回発行いたします。

行政と町会について

行政と町会との関係について、その内容を整理し協働体制がとれるような課題を取り組んでまいります。

その他として

- 視察研修
- 全市一斉清掃
- 永年表彰
- 福祉、教育、文化団体・会議などへの参画
- 栃木県自治会連合会事業への参加等

平成24年度 佐野市町会長連合会役員

(3) 第8号

佐野市町会長連合会会報

会長 篠崎芳朋 下多田	副会長 田中正美 [田沼北部地区]	副会長 小野一郎 [田沼南部地区]	副会長 大場吉平 [田沼地区]	副会長 石橋一男 [田沼地区]
理理事 赤見地区	理理事 吉妻地区	理理事 旗川地区	理理事 堀米地区	理理事 田沼地区
理事 事務担当者	理事 事務担当者	理事 事務担当者	理事 事務担当者	理事 事務担当者
小寺和夫 真下武人	内藤信雄 赤坂知久	福嶋栄司 吉川孝文	中山文雄 関川町	上岡良雄 浅沼町
石塚町(緑) 李町(市場)	高橋町 萩町(市)	堀町(市)	米山南町	青木茂伸 島田一男
				長谷川博 亀井町
				飯田町 伊賀町
				越名町 富士見町
				葛生地区
				佐野地区
				佐野地区
				三好地区
				戸奈良地区
				野上地区
				飛駒地区
				常盤地区
				葛生地区
				新合地区
				星野和雄 森下憲一
				影山季雄 大屋吉久
				池澤進 片倉
				長島信夫 閑馬上
				水木 飛駒3区



全市一斉清掃 —浅沼町会 レポート—



5月27日（日）市内全域による一斉清掃を実施しました。また同日、秋山川清掃も実施され多くの市民の方々が地域の環境美化に汗を流されました。

市内でも有数のマンモス町会である浅沼町会の一斉清掃の様子を取材しました。

午前7時、浅沼町会所には約300人の住民が集まりました。特別参加として佐野警察署長、副署長および署員も参加し地域一体となった環境美化活動が開始されました。

上岡良雄町会長は「自分たちが日頃利用している

生活道路や公園を感謝の心で自らが綺麗にする事に意味があります。浅沼のような大きな町会においては、住民相互の協調と親睦交流を持つことが大切です。」と挨拶されました。

役員と環境衛生委員が事前に地区割や収集分別について協議済みとあって、スムーズに参加者も清掃活動を行っていました。

この事業は年々参加者が増えているとのことで、住民の方々の環境意識の高さと町会事業への理解の高さを伺うことができました。
(番記者)

町会は地域において様々な役割を担っています！

町会は住民の皆さんと共に災害時の対応、隣近所との絆づくり、いざという時の相互扶助など地域のために様々な活動を行っている団体です。町会活動に対してより深いご理解をいただき、積極的に参加してください。

- 安全・安心な暮らしが守る活動 町会では子どもたちの安全を守るために自主防犯パトロールや自主防災の組織をつくっています。また、防犯灯の維持管理や交通安全活動も町会が行っています。
- 親睦交流活動 円滑な地域社会を進めるうえで、地域の人々が交流することは非常に重要です。町会では、お祭りや子ども会、敬老会への協力をとおして子どもから高齢者までの暮らしを後押ししています。
- 環境美化活動 地域で快適に暮らせるよう、清掃活動をとおしての環境美化活動を行っています。ごみ集積所の管理運営も町会が行っています。
- 地域情報活動 地域の事業案内や市役所・学校・警察などからの情報を回観板や広報の配布をとおして、生活に必要な情報を提供しています。災害時などの緊急時においても有効的な手段であると言われています。

住んでいて良かったと思える町づくり

～避難者の方々とともに 米山南町～



**モットー「仲良く安心して気持
ちよく暮らそう」**
米山南町会の歴史は佐野工業団地の造成とともに始まり、昭和45年に町会が設立した当時は社宅のみで個人住宅は一軒もありませんでした。現在は約550世帯を抱かえる若い町会です。

平成23年4月6日

昨年の4月6日、町長のもとへ「福島から避難してきた方が雇用促進に入居された」との一報がありました。その日を境に避難者の方々に、佐野に住んで良かった。と思ってもらえるための活動が、町長と町会の人々で始まりました。

ところが、頼りにしていた行政の対応は決して満足のいくものではありませんでした。町長は困りごと相談や必要な情報提供に地道に努め、必要な物資はNPOの手を借りて届けることができました。また、地元の企業が就職支援に名乗りを上げて避難者の方々を採用してくれたり、新聞社の力を借りて東電との対話集会や給湯器の設置問題を取り上げてもらい、人の和が後押ししてくれる形となりました。「避難している方々にとつて日常生活を普通に送ることの難しさを、市民の皆さんに感じています」と小早川房平町会長は言います。

このままではあります。佐野の人口は減少の一途を辿っています。福島の方々のぬくもりがこの雑巾を手にした佐野の人々の方々が縫った「までいなぬくもり」という雑巾を販売しています。「までいな」は福島の方々が、心をこめて。という意味で、心をこめて。この意味での販売は決して満足のいくものではありませんでした。町長は困りごと相談や必要な情報提供に地道に努め、必要な物資はNPOの手を借りて届けることができました。また、地元の企業が就職支援に名乗りを上げて避難者の方々を採用してくれたり、新聞社の力を借りて東電との対話集会や給湯器の設置問題を取り上げてもらい、人の和が後押ししてくれる形となりました。「避難している方々にとつて日常生活を普通に送ることの難しさを、市民の皆さんに感じています」と小早川房平町会長は言います。

**最後に町長から一言いたた
きました。「まだ終わつたわけ
ではありません。行政には改め
て、今後起こりうるであろう災
害の対策として、そして未来の
ためにも今回の経験を活かした
枠組みを作つていただきたいと
切に願います。私達にできるこ
とはまた沢山あるのです。」**

現在、避難して来られた女性の方々が縫つた「までいなぬくもり」という雑巾を販売しています。「までいな」は福島の方々が、心をこめて。この意味での販売は決して満足のいくものではありません。佐野の人口は減少の一途を辿っています。福島の方々のぬくもりがこの雑巾を手にした佐野の人々の方々が縫つた「までいなぬくもり」という雑巾を販売しています。「までいな」は福島の方々が、心をこめて。この意味での販売は決して満足のいくものではありませんでした。町長は困りごと相談や必要な情報提供に地道に努め、必要な物資はNPOの手を借りて届けることができました。また、地元の企業が就職支援に名乗りを上げて避難者の方々を採用してくれたり、新聞社の力を借りて東電との対話集会や給湯器の設置問題を取り上げてもらい、人の和が後押ししてくれる形となりました。「避難している方々にとつて日常生活を普通に送ることの難しさを、市民の皆さんに感じています」と小早川房平町会長は言います。

佐野での生活を楽しんでほしいと米山南町の夏祭りの参加に声をかけたところ、避難者の皆さんが自動的に綿あめ作りをしてくださった喜びは今でも忘れられないことがあります。

ゴスペルライブや足利フラワーパークへの招待、いちご狩りなどのイベントも、理解を示して協力してくれる団体や企業があつたからこそ実現できたと感謝されています。

地域の力

編集後記